



安全を脅かす乗務員の労働実態！ シリーズ5

拘束時間の拡大によって、乗務距離が増加し 寝不足・疲労困憊です

私の職場のある線区の行路は、乗務員勤務制度見直し後のダイヤ改正で3枠(3日分の仕事)削減されたのに、乗務距離が57.4 km増加しました。このことは1日当たりの仕事が圧縮されたことであり、乗務員の疲労はピークに達しています。



ある職場のある線区の実態

※乗務距離・拘束時間は平均値です

	日勤行路		泊まり行路	
	乗務距離	拘束時間	乗務距離	拘束時間
ダイヤ改正前	264.6 km	8時間06分	456.0 km	18時間36分
ダイヤ改正後	272.9 km	8時間37分	505.1 km	20時間06分

ある行路では、16時25分に出勤して、0時00分着の電車まで乗務。睡眠を目的とした休憩後、起床時刻は5時08分、身支度を済ませて、点呼時刻5時23分から勤務再開。5時45分発車の電車から乗務再開、勤務終了時刻の12時43分まで働きます。



睡眠時間が少なく、明けの労働時間が増え、集中力の低下など安全上を大きな不安を抱える

東京地本運輸車両部会が運転士・車掌組合員を対象に取り組んだアンケートでは、乗務中の疲労度について、**98%**の組合員が「**増加した**」と回答。行路の睡眠時間について、**85%**の組合員が「**休息が取れていない**」と回答しています。

疲労の蓄積は安全問題に直結します！